

2017年 世界の10大リスク

イアン・ブレマン氏率いる政治リスク調査会社ユーラシアグループによる
新年最大のリスクは予測不可能なトランプ大統領が誕生した米国

第1位 国際的な責任を放棄した米国

トランプのスローガンは「アメリカ・ファースト（米国第一）」と「米国をもう一度偉大な国に」、これは米国の孤立主義を意味するのではなく、米国の力を米国の利益のために使う、トランプは単独行動主義者

ビジネスマンのトランプは国際機関や同盟国とはウィン・ウィン関係が成立しなければ関与しない傾向が強くなる、負担ばかりが大きい「世界の警察官」役から降りることを米国の有権者も望んでいる

中国が台頭するアジア太平洋地域で米国がプレゼンスを低下させれば、中国にとって大きなチャンスになる

第2位 中国の過剰反応

トランプはすでに、台湾の蔡英文相当と電話会談している、「一つの中国」原則について、トランプは「どうして我々が縛られなければならないのか」と疑問を呈した

トランプは対中貿易の赤字、人民元の為替レートについて再三攻撃してきた、革新的利益で他国と衝突した場合、秋の党大会を控える習近平が過剰反応する危険性が極めて強い、中国経済の悪化を防ぐため過剰な景気刺激策、資本規制を取った場合、世界経済への悪影響が懸念される

第3位 支持基盤弱まるドイツのメルケル首相

9～10月のドイツ総選挙でメルケルが4選を果たすのは間違いない、しかし反難民・移民、反ユーロを唱える新興政党「ドイツのための選択肢」の台頭で、社会民主党（SPD）と再び連立を組まなければ4選を果たすことは難しい

難民問題、テロ対策、ギリシャ債務問題、VW(フォルクスワーゲン)、ドイツ銀行というドイツ主要企業の不祥事が続く、ドイツやEUを取り巻く環境で、メルケルの政権基盤が弱まるのは避けられない

フランス大統領選挙では反EUの極右政党・国民戦線のマリーヌ・ルペン党首が決選投票に進出するのは確実、しかもルペンはプーチン首相を崇拝している、対抗馬の中道右派・共和党のフィヨン候補も新ロシアの立場を表明している

ハンガリーのオルバン首相はロシアに接近している、プーチンに対抗するメルケルの足元はグラグラしている、今ほど「強いメルケル」が求められる時はな

いのに、メルケルのパワー低下は不可避の状況、欧州の情勢は一段と厳しくなるであろう

第4位 進まない改革

アルゼンチン、ブラジル、フランス、ドイツ、インド、メキシコ、ナイジェリアで改革が停滞、イタリア、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、英国では後退の恐れ

第5位 テクノロジーと中東

テクノロジーは経済成長と効率化の推進力となる一方、中東で政治の不安定さを悪化させてしまう、中東の権威主義体制は依然として安定を保つ秘匿性を必要としている

第6位 政治化する中央銀行

この10年間で初めて、中央銀行が新興国のみならず、米国やユーロ圏、英国で攻撃対象になっている、中央銀行の独立性が脅かされている、政治批判を受ける中央銀行はスケープゴートにされる恐れがあり、世界市場のリスクになりかねない

第7位 トランプ政権とシリコンバレー

米シリコンバレーのテクノロジー企業は大統領選では反トランプの立場を鮮明にした、テクノロジー企業は無人化を進めるが、トランプが求めるのは雇用の創出、テロ対策を巡るプライバシーと安全の議論でもトランプとシリコンバレーは対立する恐れあり、皮肉にもトランプ大統領を誕生させたのは既存のメディアではなく、テクノロジー企業が生んだツイッターやフェイスブックのソーシャルメディア、そしてトランプは法人税の減税を掲げており、これにはシリコンバレーも大歓迎

第8位 トルコ

昨年のクーデター未遂をきっかけに、ますます権威主義体制を強化するエルドアン大統領、米国に亡命中のイスラム教指導者ギュレン師やクルド人勢力との対立も深まり、テロも頻発している、NATO 加盟国のトルコがロシアに急接近していることも不安材料

第9位 北朝鮮

北朝鮮の核・ミサイル開発は進み、すでに20発の核兵器を製造できる核物質を

保有しているとみられる、米国の政策担当者はアラスカを核攻撃できる能力を超えてはならない一戦とみている

トランプが北朝鮮に対して高圧的な態度に出れば、米中関係が悪化する恐れがあり、北朝鮮の核・ミサイル開発にからんで中国の銀行への金融制裁を強化すれば、さらに緊張は強まりそう

第10位 南アフリカ

ズマ大統領を巡るアフリカ民族会議（ANC）内外の反対が強まり、こうした政治危機が南アフリカ経済と地域の安定性を損なう恐れがある

トランプ大統領の誕生がとんでもないリスクになるのは避けられそうにない

イアン・ブレマン氏 売れっ子の国際政治学者

巨額の資金を動かすヘッジファンド、米ユーラシア・グループを率いる

各国政府まで彼のグローバルな政治リスク分析を求める

日本政府も、彼の話に真摯に耳を傾ける